

精神障害

精神障害とは

精神疾患が原因で、日常生活や社会生活に支障をきたしている状態を精神障害と言います。大学生の年代にあっても精神疾患は珍しいものではありません。

●分類と説明

種類	分類	説明
種類	気分障害（大うつ病性障害、双極性感情障害を含む）	うつ状態（眠れない、食欲がない、1日中気分が落ち込んでいる、何をしても楽しめない等）が持続する。うつ状態に加えて躁状態を伴うものは双極性感情障害と呼ばれる。
	不安障害	強い不安、動悸、呼吸困難、手足のしびれ、めまい、気が遠くなる感じなどが突然出現する「パニック障害」、対人恐怖が強く支障をきたす「恐怖症」、何度も確認しないと落ち着かない、こだわりが強くなる「強迫性障害」等がある。
	睡眠障害	睡眠になんらかの問題がある。なかなか寝つけない場合や早い時間に目覚める場合もあれば、夜間は熟睡できずたびたび目が覚めて寝返りをうち続ける場合等がある。
	性別違和（性同一性障害）	生物学的な性別と性別の自己意識の不一致のため、日常生活や社会生活に支障を来している状態
	統合失調症	幻覚や妄想等の陽性症状、思考の障害や情動面の不安定さ、不安や睡眠障害等を伴うこともある。急性期は陽性症状がみられるが、その後の経過において、活動性が低下したり感情の表出が乏しくなったりする陰性症状が顕在化することもある。
	高次脳機能障害	頭部外傷や脳血管障害の受傷等によって脳の損傷の後遺症が残る（記憶、注意、遂行機能、社会的行動の障害、失語症、失行症、失認症、半側空間無視、等）

精神障害のある人の困難さ

精神障害は発達障害と同様に見た目では分かりにくい障害です。行動面や言動で特性が表れることもありますが、例えば、大学に進学している人等については目立ちにくいこともあります。さらに、環境要因によっても、困難さの表れ方が異なるため、個別性が高いことが特徴です。

また、障害に起因するトラブルが起こっていたとしても、本人や周囲が個人的な努力不足などと受け止めてしまうケースもあるため“困っている人”として認識されないことがあります。さらに、環境との相互関係により問題が生じていることが多いため、個人の困難さをどのように解消・軽減するか判断が難しい場合があります。

●困難の具体例

時期	内容
入学まで	集団の中で試験が受けられない 支援受付窓口がわからない
学習	履修計画が立てられない／授業の内容、形式、評価方法等の情報が明らかでない場合、自分に適した授業が選択できない／適切な授業が履修制限で取れない 欠席、遅刻が多い 自分の意見が言えない グループワークで不安や緊張が極度に強まる 集中力の持続が困難である
環境整備	安心してキャンパスにいるのが難しい
就職活動	履歴書が書けない／職業の適性が分からない／就職が決まらない
学生生活	名称や呼称の変更希望／男女別のトイレや更衣室が利用できない／健康診断の順番
災害時	落ち着いて行動できない／所在、安否等が確認できない／ストレスによってパニック状態に陥る

障害のある教職員の困難の具体例：周囲の理解がない、業務量等の調整が難しい 等

精神障害のある人への支援

精神障害のある学生の中には、履修やゼミ選択を考える際に、体調不良時の情報保障や試験に関する支援が必要な場合があります。

●対応・配慮の具体例

時期	物的支援	人的支援	環境調整	その他
入学まで	注意事項等の文書による伝達	男女別の時間以外での健康診断	別室の設定 座席の優先指定 ユニバーサルトイレの利用 男女別以外の更衣場所の用意	名称変更、呼称の変更の検討 服薬と飲水の許可
学習	パソコン利用 デバイスなどによる補充 授業の録音や板書などの 写真撮影の許可 レジュメやハンドアウトの配付	ノートテイク 事後での課題や指導の対応 ティーチングアシスタントの配置	詳細なシラバスやガイダンス 座席の配慮 別室での試験実施	頓服薬の使用許可
環境整備	休養室等の用意	周囲の理解	居場所の提供	必要に応じて 自治体関係部局等との連携
就職活動	休養室等の用意	カウンセラーやキャリアカウンセラーとの連携 エントリーシート作成や採用面接に向けた指導	学内資源を利用した就業経 験 外部リソースとの連携	就職ワークショップ
学生生活	休養室等の用意	自己理解促進の指導 周囲の理解と本人への心理 カウンセリング	居場所の提供	刺激の少ない安全な 場所の確保
災害時	個別の情報伝達	避難方法の計画 避難訓練の実施 明確な指示 カウンセリング、不安への 対応方法の確認	避難できる経路の確保 緊急時の連絡体制（安否確認） 日頃からの手順の確認	利用可能な避難所の紹介

障害のある教職員への対応・配慮の具体例：本人のプライバシーに配慮した上で、他の職員等に対し、障害の内容や必要な配慮等を説明する、本人の負担の程度に応じて業務量等を調整する 等

●支援のポイント

修学支援の前に確認すること	本人の同意を得て、主治医に生活状況や病状を確認する
修学支援までのプロセス	病識が乏しい学生への受診
	受診の継続
休学期間がある場合の支援	休学中から連携をしながら環境調整を進めて修学支援を準備する

発達障害と重複して症状が出ている場合もあります。鑑別の難しい場合があります。個別のニーズを見極めた上で、配慮内容を検討することが望ましいです。

アビリティ

できること、得意なことは個人によって異なる。得意な分野、特性が適合する場合は非常に高い生産性を発揮する可能性がある。

関連情報の入手先

福岡県・市の精神保健福祉センター 等 ※詳細は最寄りの役場にお尋ねください。

福岡市の場合・・・福岡市精神保健福祉センター <http://www.city.fukuoka.lg.jp/hofuku/seishinhoken/life/seishinhoken-center/>